

1983年11月30日発行 10号



中村 哲・尚子

ロンドン

Abbey Missionary School
で研修中

パキスタン・ペンシャワール

ミッション・ホスピタル派遣予定

お元気ですか？ 現在、ここロンドンにある Abbey Missionary School というところで英語の研修をしています。

はや1ヶ月たちますが、私のパキスタンなまりの broken English もずいぶん矯正されてきました。妻の尚子も一緒に通学していますが、なにしろ10数年ぶりに英語を習うというので悪戦苦闘です。夜は子供が寝つくとほっとして、ついでにこちらまで眠くなってくるといふ毎日で、例によって余り模範生とはいえませんが、私達なりに頑張っているつもりです。（しかし、時には子供の居ない独身の人々がうらやましくなることもあります。）

ここに居ると、英語の学習だけでなく、いろいろと良い意味でも悪い意味でも刺激になることが沢山あります。この学校には様々の国から、様々の人達がきています。医療関係者もずいぶん居ます。中には、私と時期を同じくしてパキスタンの北西辺境州に派遣される予定だというスウェーデン人の保健婦が居て、思わぬ出会いに驚かされることもありました。また奇しくも、中近東で働きたいという日本人医師・粟田レイ子先生や、淀川キリスト教病院からホスピスの勉強に来ている三国さんとも一緒になりました。まあみんなでなんとかやっております。

ロンドン在住1年半以上になる佐藤先生御夫妻と、JCF (Japanese Christian Fellowship) の方々にもずいぶんお世話をいただきました。また、長崎太郎先生 (担当理事) の紹介で、救世軍の方々が暖かくむかえて下さり、みつけるのが困難だった Livapool での家族用住居も用意していただきました。人の親切が身にしみて感ぜられます。まことに感謝です。

住居といえば、今私たち家族の居る House of Rest の一室は、先ほど述べた JCF の集会所が十数年前に最初に始まった場所なのだそうです。しかし、いろんな事情から、この建物が売却されることになり、つい数日前落札したのだそうです。もう来年からは人手にわたり、最後の居住者が日本人の私たちだったということになります。Abbey School と Abbey Baptist Church とともに100年以上のつながりのあったところなので、みな自分のことのように別れを惜しんでいます。

私たち家族は年末には語学研修を終えて、Liverpool にうつり、熱帯医学校で研修する予定です。どうぞ、研修をとどこうりなく終えられますようお祈り下さい。ではまた。